

### (3) 智頭急行株式会社経営状況報告書

法人の概要（令和6年6月28日現在）

- |   |         |   |                      |
|---|---------|---|----------------------|
| 1 | 名 称     | 智頭急行株式会社                                  |                      |
| 2 | 目 的     | 鉄道事業法による旅客の運送業及びこれに付帯又は関連する事業を営むことを目的とする。 |                      |
| 3 | 設立登記年月日 | 昭和61年5月31日                                |                      |
| 4 | 資 本 金   | 450,000,000円(9,000株)                      |                      |
| 5 | 株 主     | 鳥 取 県                                     | 152,500,000円(3,050株) |
|   |         | 兵 庫 県                                     | 60,000,000円(1,200株)  |
|   |         | 鳥 取 市                                     | 50,550,000円(1,011株)  |
|   |         | 岡 山 県                                     | 36,450,000円( 729株)   |
|   |         | 各市町村                                      | 89,300,000円(1,786株)  |
|   |         | 民間企業                                      | 58,500,000円(1,170株)  |
|   |         | 各 団 体                                     | 2,700,000円( 54株)     |
| 6 | 役 員     | 取締役 15人                                   | 監査役 2人               |
|   |         | 取締役会長                                     | 平井伸治(鳥取県知事)          |
|   |         | 取締役副会長                                    | 服部洋平(兵庫県副知事)         |
|   |         | 取締役副会長                                    | 上坊勝則(岡山県副知事)         |
|   |         | 代表取締役社長                                   | 西尾浩一                 |
|   |         | 代表取締役常務                                   | 稲田雅也                 |
|   |         | 取 締 役                                     | 深澤義彦(鳥取市長)           |
|   |         | ”   | 吉田英人(八頭町長)           |
|   |         | ”   | 金兒英夫(智頭町長)           |
|   |         | ”   | 青木秀樹(西粟倉村長)          |
|   |         | ”   | 萩原誠司(美作市長)           |
|   |         | ”   | 庵途典章(佐用町長)           |
|   |         | ”   | 梅田修作(上郡町長)           |
|   |         | ”   | 石丸文男(株式会社山陰合同銀行特別顧問) |

(3) 智頭急行株式会社

取 締 役 八 木 俊 英 (株式会社鳥取銀行取締役常務  
執行役員)

〃 丸 山 明 則 (神姫バス株式会社代表取締役  
専務取締役)

監 査 役 広 田 一 恭 (倉吉市長)

〃 三 宅 智 章 (姫路信用金庫専務理事)

7 従 業 員 75人

8 事 務 所 本 社 鳥取県八頭郡智頭町智頭2052番地1

運 輸 部 鳥取県八頭郡智頭町智頭1862番地2

大原事業所 岡山県美作市古町1550番地2

## 令和5年度事業実施状況

## 1 輸送人員

特急列車の輸送人員は、728,020人(前年度比128.6%、令和元年度比85.8%)と前年度を162,125人上回った。コロナ禍においても緩やかな回復傾向が続いていたが、令和5年度下期に入り利用状況が顕著な回復傾向となり、当初見込みの597,747人と比較すると130,273人上回る利用結果となった。これは、インバウンドを含む国内移動の回復等が主な要因と考えられる。

列車別には、スーパーはくと号は532,573人(前年度比129.5%、令和元年度比88.9%)、スーパーいなば号は195,447人(前年度比126.4%、令和元年度比78.3%)となり、観光利用のウエイトが大きいスーパーはくと号の利用の回復傾向がより大きくなった。

普通列車の輸送人員は、194,050人(前年度比97.7%、令和元年度比70.8%)と前年度を4,665人下回った。通学利用の減少により、令和3年度以降は20万人を下回る利用となっている。

## 《輸送人員》

(単位：人、%)

区 分		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	令和5年度累計
スーパー はくと	人 員	117,314	133,767	142,005	139,487	532,573
	乗車率	38.9	43.9	44.5	43.7	42.9
	前年度比	148.8	147.0	119.1	114.2	129.5
	令和元年度比	79.0	81.1	89.4	110.9	88.9
スーパー いなば	人 員	44,292	50,239	52,840	48,076	195,447
	乗車率	35.1	39.6	40.9	38.6	38.6
	前年度比	136.8	143.8	119.7	111.4	126.4
	令和元年度比	69.2	79.1	79.3	95.4	78.3
特急列車 合 計	人 員	161,606	184,006	194,845	187,563	728,020
	乗車率	37.8	42.7	43.5	42.3	42.7
	前年度比	145.3	146.1	119.3	113.4	128.6
	令和元年度比	76.1	78.7	86.4	106.0	85.8
普通列車	人 員	52,620	51,391	49,143	40,896	194,050
	前年度比	92.6	100.7	96.9	101.8	97.7
	令和元年度比	70.2	69.3	66.6	79.9	70.8

## 2 収支状況

営業収益は、2,471百万円(前年度比112.1%、令和元年度比89.4%)と、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が限定的だった令和元年度より292百万円の大幅な減となった。

旅客運輸収入は、1,156百万円(前年度比127.0%、令和元年度比89.9%)と、新型コロナウイルス感染症の影響等により輸送人員が減少し、令和元年度より130百万円の減となった。

運輸雑収は、1,314百万円(前年度比101.6%、令和元年度比89.0%)と、スーパーはくと6号及び9号が平日等に1往復運休となったこと等により受取車両使用料が減少し、令和元年度より162百万円の減となった。

営業費用は、2,389百万円(前年度比102.0%、令和元年度比93.8%)と、令和元年度と比較して軽油単価の高騰に伴う動力費の増加等があったものの、新規投資を抑制したことに伴う減価償却費の減少、土木構造物の修繕の減少等により158百万円の減となった。

営業損益は82百万円と、令和元年度より134百万円の減益となり、経常損益は85百万円と、令和元年度より134百万円の減益となり、大幅な減収減益となった。

経常損益は前年度と比較すると増収増益となり、令和元年度以来4期ぶりの黒字となった。

### (3) 智頭急行株式会社

なお、国及び自治体からの補助金等を計上する特別損益を加味した税引前当期純損益は192百万円となった。

(単位：円、%)

区 分		令和5年度	(前年度比) (令和元年度比)	前年度 差額	令和元年度 差額
収入	営業収益	2,470,842,733	(112.1) (89.4)	266,573,532	△292,178,532
	旅客運輸 収入	1,156,428,066	(127.0) (89.9)	245,605,652	△129,868,630
	運輸雑収	1,314,414,667	(101.6) (89.0)	20,967,880	△162,309,902
費用	営業費用	2,389,077,331	(102.0) (93.8)	46,475,907	△157,806,116
	人件費	514,174,316	(101.6) (105.1)	7,924,963	25,023,418
	修繕費	789,020,217	(100.2) (87.1)	1,674,492	△117,056,956
	動力費	331,218,064	(94.8) (117.1)	△18,169,194	48,339,553
	経 費	423,652,662	(117.4) (112.8)	62,758,292	48,163,328
	諸 税	55,696,687	(99.0) (76.9)	△566,320	△16,698,882
	減価償却費	275,315,385	(97.5) (65.4)	△7,146,326	△145,576,577
営業損益		81,765,402	( - ) (37.8)	220,097,625	△134,372,416
営業外収益		6,710,890	(14.5) (46.2)	△39,616,571	△7,823,119
営業外費用		3,871,732	(140.4) (32.2)	1,114,134	△8,154,396
経常損益		84,604,560	( - ) (38.7)	179,366,920	△134,041,139
特別利益		172,238,473	(131.6) (929.9)	41,339,375	153,715,659
特別損失		64,667,008	(148.7) (272.6)	21,175,970	40,943,054
税引前当期純損益		192,176,025	( - ) (90.0)	199,530,325	△21,268,534
法人税等		29,156,700	(2566.6) (44.5)	28,020,700	△36,377,700
当期純損益		163,019,325	( - ) (110.2)	171,509,625	15,099,166

### 3 運転計画等

令和6年3月のダイヤ改正を3月16日に実施し、スーパーはくと号の増発及び姫路駅で新幹線との接続等の輸送改善を実施した。

### 4 輸送の安全確保のための取組み

列車の運転を行う乗務員に対し、必要な知識及び技能を保有するための教育・訓練を実施するとともに、事故や設備不良、不審者や鉄道テロ等不測の事態が発生した時に冷静かつ迅速・的確に対応できるよう、警察・消防・JR西日本等とも連携し、さまざまな訓練を実施した。

また、必要な設備や車両の検査・修繕及び更新等を実施し、安全の確保と品質の維持向上に努めた。

## 〔主な修繕の状況〕

(単位：千円)

	主な工事	金額	補助事業
線路	志戸坂トンネル修繕(第3工区)	25,630	補
	苔縄高架橋修繕	24,200	補
	恋山形・智頭間ロングレール更換	10,230	補
	尾見高架橋修繕	11,814	
	上郡・石井間土木構造物定期検査	10,835	
	小計	82,709	
車両	HOT7000 冷房装置整備工事	25,556	
	HOT3500 系重要部検査工事	12,925	
	小計	38,481	
	合計	121,190	

## 〔主な設備投資の状況〕

(単位：千円)

	主な工事	金額	補助事業
電気	佐用・平福間外ATS-P装置更新(注1)	26,330	補
	大原・あわくら温泉間外ATS-P装置更新(注1)	23,308	補
	気象観測設備(風速計・雨量計)	21,735	補
	踏切保安装置改良 3ヶ所	13,987	補
	小計	85,360	
車両	HOT7000系エンジン(14台)	74,060	
	小計	74,060	
	合計	159,420	

※主な修繕及び主な設備投資については、10,000千円以上の工事を記載

注1：ATS-P(自動列車停止装置P形)は、列車の速度を連続的にチェックし、停止(赤)信号や制限速度を超えて異常な運転をされることの無いよう自動でブレーキをかけて停止、減速させる装置

## 5 主な企画きっぷの発売状況等

JR西日本と連携した企画きっぷ「東京往復割引きっぷ」の発売状況は、下期以降、国内移動の回復が顕著になった影響により、前年同期を上回り、令和5年度累計においても26.8%の増となった。

智頭急行独自の企画きっぷについては、令和6年3月のダイヤ改正より特急列車が全車指定席となったため、特急列車関係の「自由席回数特急券」、「定期券用自由席回数特急券」の発売を1月末に終了した。普通列車関係では、通年利用可能な「智頭線普通列車1日乗車券」を令和5年5月より新たに発売を開始し、これに併せて、類似の一部のきっぷを廃止した。その他の「優ユウきっぷ」、「楽ラクきっぷ」等は、いずれも前年度を下回った。

## (1) JR西日本と連携

従来の特別企画きっぷ(カッコ内は前年度比)

企画きっぷ	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	令和5年度累計	前年度増減
東京往復割引きっぷ	362枚 (123.5%)	392枚 (129.8%)	481枚 (125.3%)	467枚 (128.7%)	1,702枚 (126.8%)	360枚

### (3) 智頭急行株式会社

#### (2) 智頭急行独自

普通列車関係（カッコ内は前年度比）

企画きっぷ	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	令和5年度累計	前年度増減
智頭線普通列車 1日乗車券(6月から発売) 大人 2,000円 小児 1,000円	163枚	486枚	251枚	307枚	1,207枚	—
特殊回数乗車券 3,000円 (100円券/33枚綴り)	17冊 (51.5%)	23冊 (104.5%)	24冊 (109.1%)	14冊 (73.7%)	78冊 (81.3%)	△18冊
楽ラクきっぷ (70歳以上の方) 2,500円 (100円券/33枚綴り)	37冊 (108.8%)	23冊 (60.5%)	25冊 (75.8%)	19冊 (76.0%)	104冊 (80.0%)	△26冊
優ユウきっぷ (運転免許返納者) 1,500円 (100円券/33枚綴り)	26冊 (81.3%)	23冊 (100.0%)	26冊 (81.3%)	26冊 (130.0%)	101冊 (94.4%)	△6冊

#### 6 鉄道運転事故等について

令和5年度は、自社線内での鉄道運転事故、インシデントの発生はなかったものの、スーパーはくと号の乗降ドアの外板パネルが落下する事象が発生した。

##### (1) 輸送障害の発生状況（運休または30分以上の遅延）

- ア 部外原因 17件（JR線内の列車遅延の影響、雨運転規制の影響）
- イ 部内原因 1件（信号設備の故障）

##### (2) 旅客用乗降ドアの外板パネルの落下

ア 発生日時 令和6年3月1日（金）午後9時50分頃

イ 発生場所 平福駅構内

ウ 概況 京都発鳥取行き特急スーパーはくと13号が平福駅を通過中、4号車乗降ドアの外板パネルが落下した。乗客との接触や私有地への飛散はなかったが、一歩間違えば大きな事故に繋がりがかねない事象であった。

エ 対応 直ちに全車両の緊急点検を行い、乗降ドアの外板パネルの取り付け状態に異常が無いことを確認し、翌3月2日の運用に使用している。

また、再発防止策として、乗降ドアの外板パネルの取り付けリベットをドア1枚あたり9個追加することとし、3月15日までに全車両への対応を完了した。

#### 7 利用促進に向けた取組みについて

国内のみならず世界的に人気の高い「名探偵コナン」を特急スーパーはくと号にラッピングした「スーパーはくと名探偵コナン号」が、開業記念日である12月3日より運行を開始した。国内外の観光客に、京阪神から乗換えなしで移動できる「特急スーパーはくと号」の魅力をPRして、鳥取県への誘客及び利用者増加を図った。令和7年の大阪・関西万博、鳥取県中部地域で予定されている令和7年春の県立美術館開館及び令和9年の青山剛昌ふるさと館の移転新築等を好機として、「スーパーはくと名探偵コナン号」を観光コンテンツの一つと位置付け、今後も地元施設等と連携して交流人口拡大及び利用者増加を図る。

## 損益計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

科目	当年度	前年度	増減	備考
	円	円	円	
I 鉄道事業営業利益				
1 営業収益	2,470,842,733	2,204,269,201	266,573,532	
(1) 旅客運輸収入	1,156,428,066	910,822,414	245,605,652	
(2) 運輸雑収	1,314,414,667	1,293,446,787	20,967,880	
2 営業費	2,389,077,331	2,342,601,424	46,475,907	
(1) 運送費	1,873,738,730	1,884,446,511	△ 10,707,781	
(2) 案内宣伝費	54,892,452	3,513,709	51,378,743	
(3) 厚生福利施設費	1,672,966	1,720,820	△ 47,854	
(4) 一般管理費	127,761,111	114,195,666	13,565,445	
(5) 諸税	55,696,687	56,263,007	△ 566,320	
(6) 減価償却費	275,315,385	282,461,711	△ 7,146,326	
鉄道事業営業利益	81,765,402	△ 138,332,223	220,097,625	
II 営業外収益	6,710,890	46,327,461	△ 39,616,571	
1 受取利息	2,556,310	2,345,703	210,607	
2 受取配当金	10,000	10,000	0	
3 雑収入	4,144,580	43,971,758	△ 39,827,178	
III 営業外費用	3,871,732	2,757,598	1,114,134	
1 支払利息	0	0	0	
2 繰延資産償却	3,482,485	2,737,665	744,820	
3 雑支出	389,247	19,933	369,314	
経常損益	84,604,560	△ 94,762,360	179,366,920	
IV 特別利益	172,238,473	130,899,098	41,339,375	
V 特別損失	64,667,008	43,491,038	21,175,970	
税引前当期純利益	192,176,025	△ 7,354,300	199,530,325	
法人税等	29,156,700	1,136,000	28,020,700	
当期純利益	163,019,325	△ 8,490,300	171,509,625	

## 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

科 目	当年度	前年度	増減
	円	円	円
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	2,050,104,019	2,509,326,681	△ 459,222,662
未収運賃	389,680,087	366,433,811	23,246,276
未収入金	105,875,771	48,790,508	57,085,263
未収収益	1,187,654	1,621,405	△ 433,751
有価証券	1,084,638,702	492,121,506	592,517,196
貯蔵品	385,921,800	381,039,298	4,882,502
前払費用	21,836,767	23,299,455	△ 1,462,688
未収入還付法人税等			0
未収還付消費税等			0
その他の流動資産		60,000	△ 60,000
流動資産合計	4,039,244,800	3,822,692,664	216,552,136
2 固定資産			
(1) 鉄道事業固定資産	1,750,852,214	1,837,511,189	△ 86,658,975
有形固定資産	1,716,041,439	1,823,150,081	△ 107,108,642
無形固定資産	34,810,775	14,361,108	20,449,667
(2) 投資等	2,580,840	2,581,560	△ 720
差入保証金	1,900,000	1,910,000	△ 10,000
その他	680,840	671,560	9,280
固定資産合計	1,753,433,054	1,840,092,749	△ 86,659,695
3 繰延資産			
開発費	29,215,225	27,708,210	1,507,015
繰延資産合計	29,215,225	27,708,210	1,507,015
資産合計	5,821,893,079	5,690,493,623	131,399,456
II 負債の部		円	円
1 流動負債			
未払金	199,366,267	277,091,247	△ 77,724,980
未払費用	11,486,495	6,913,881	4,572,614
未払法人税等	34,618,400	4,930,400	29,688,000
預り金	6,131,492	2,160,826	3,970,666
前受運賃	1,272,862	1,214,131	58,731
前受収益	18,273,870	18,240,770	33,100
仮受金			0
未払消費税等	34,881,800	27,099,800	7,782,000
流動負債合計	306,031,186	337,651,055	△ 31,619,869
2 固定負債			
長期未払金	0	0	0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	306,031,186	337,651,055	△ 31,619,869
III 純資産の部			
1 資本金	450,000,000	450,000,000	0
2 利益剰余金	5,065,861,893	4,902,842,568	163,019,325
利益準備金	2,700,000	2,700,000	0
その他の利益剰余金	5,063,161,893	4,900,142,568	163,019,325
別途積立金	2,360,000,000	2,360,000,000	0
固定資産圧縮積立金	2,540,000,000	2,540,000,000	0
繰越利益剰余金	163,161,893	142,568	163,019,325
純資産合計	5,515,861,893	5,352,842,568	163,019,325
負債及び純資産合計	5,821,893,079	5,690,493,623	131,399,456

## 株主資本等変動計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：円)

	株主資本										株主資本合計	評価・ 換算差額等	新株予約権	純資産合計
	資本剰余金			利益剰余金				自己株式						
	資本金	資本準備金		別途積立金	利益準備金	その他利益剰余金			自己株式					
		資本準備金	資本剰余金			別途積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越 利益剰余金						
前期末残高	450,000,000	0	0	2,700,000	2,360,000,000	2,540,000,000	142,568	0	0	5,352,842,568	0	5,352,842,568		
当期変動額														
剰余金の配当										0			0	
剰余金の配当に伴う 利益準備金の積立										0			0	
積立金の積立										0			0	
役員賞与の支給										0			0	
過年度税効果調整額										0			0	
当期純損益							163,019,325			163,019,325			163,019,325	
当期変動額合計	0	0	0	0	0	0	163,019,325	0	0	163,019,325	0	163,019,325	163,019,325	
前期末残高	450,000,000	0	0	2,700,000	2,360,000,000	2,540,000,000	163,161,893	0	0	5,515,861,893	0	5,515,861,893	5,515,861,893	

## 個別注記表

- 1 重要な会計方針に係る事項に関する注記
  - (1) 資産の評価基準及び評価方法
    - ア 有価証券の評価基準及び評価方法  
移動平均法に基づく原価法
    - イ 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法
  - (2) 固定資産、繰延資産の減価償却の方法
    - ア 有形固定資産  
定率法を採用しています。  
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しています。
    - イ 無形固定資産  
定額法を採用しています。
    - ウ 繰延資産  
法人税法の規定による定額法を採用しています。
  - (3) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税抜方式を採用しています。
- 2 貸借対照表に関する注記
  - 有形固定資産の減価償却累計額 13,050,022,746円
- 3 株主資本等変動計算書に関する注記
  - (1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数 9,000株
- 4 1株当たり情報に関する注記
  - (1) 1株当たりの純資産額 612,874円
  - (2) 1株当たりの当期純損益 18,113円

## 令和6年度事業計画

中期経営計画2028では、事業を支えるための「健全な会社経営」を土台として、「安全な鉄道」「愛される鉄道」に重点をおき、5年後の到達目標である「ヒューマンエラーに起因する事故を起こさない会社づくり」「お客様、地域の皆様、社員が小さな幸福感を感じられる会社づくり」「将来にわたり事業継続が可能な会社づくり」に向けて取り組む。

初年度となる令和6年度は、以下の通り取り組む。

**(1) 安全な鉄道**

令和6年1月2日に羽田空港で発生した航空機衝突事故にみられるように、ヒューマンエラーによる事故は多くの犠牲者を生み、社会的な影響も大きなものとなる。なぜ人は間違いを起こすのかということを知り、エラーを防ぐ取り組みを行う。

## ①「狭義のヒューマンエラー」と「不安全行動」の理解

ヒューマンエラーには、うっかりミスや錯覚等により意図せずに行ってしまう「狭義のヒューマンエラー」と、行為者がその行為に伴うリスクを認識しながら意図的に行う「不安全行動」がある。

令和6年度はヒューマンファクター（人間の特性）を理解することでなぜ人がエラーを起こすのかを知る教育を行う。

## ②エラー分析と対策

ヒューマンエラーによる事故を防止するためには、「狭義のヒューマンエラー」を極力減少させる人間工学（人の動作や特性）を生かしたシステム（設備・手順）作りが有効である。

令和6年度は日常業務において「狭義のヒューマンエラー」に関する情報（ヒヤリ・ハット）を収集する重要性を理解し、事故防止のための対策に繋げる。

## ③異常時の対応力向上

乗客に安心、信頼して利用頂くためには、災害や事故等発生時の対応力向上と関係機関との連携が重要である。

令和6年度は各種訓練等による社員相互間の連携、関係機関との合同訓練等による連携強化に取り組むことにより社員の対応力向上を図る。

## (2) 愛される鉄道

地域の足として愛される会社であり続けるために、乗客、沿線住民や関係者、社員が小さな幸福感を感じられる会社づくりを目指して、取り組みを行う。

### ①乗客のために動く

乗客が小さな幸福感を感じるためには、社員全員がCSに取り組む必要性と価値を理解することが重要である。

令和6年度は接遇研修を通じて「相手を大切に思う気持ちで接すること」の重要性の理解に努め、乗客に信頼感を与える表現方法を身に付けることに取り組む。

### ②地域とともに動く

沿線住民や関係者が小さな幸福感を感じるためには、沿線住民や関係者とともに智頭線の活性化に取り組むことが重要である。

令和6年度は沿線自治体、観光協会等と連携し、因幡街道三宿（平福、大原、智頭）等の沿線の観光資源等を活かした域外からの誘客を図る。

### ③社員が自ら動く

社員が小さな幸福感を感じるためには、働きやすい環境の整備と合わせ、社員の意見が取り組みに反映されることも重要である。

令和6年度は開業30周年事業を通じて、社員の意見が反映されたイベント等を行うことにより、社員のモチベーションアップにつなげる。

## (3) 健全な会社経営

コロナ禍からの回復に向け、将来にわたり事業継続が可能な会社づくりを目指し、無駄な支出と業務の見直しによるさらなる経費節減を行うとともに、安定した収入を確保し、車両更新の検討を進める。

### ①コスト意識を高める

継続した事業運営を行うためには、業務の進め方の見直し、作業の効率化及び経費の削減が重要である。

令和6年度は社員一人ひとりが更にコスト意識を持ち、作業方法の見直しなど生産性の向上に努めるとともに、国、自治体の補助金等を積極的に活用し、実質的な経費及び固定資産税の軽減に努める。

### ②稼ぐ力の強化

コロナ禍により落ち込んだ業績を回復するために、安定した収入の確保は重要である。

令和6年度は「スーパーはくと」の輸送改善（列車増発、接続改善）による利用促進に注力するとともに、将来のカーボンニュートラルを見据えた新製車両の検討を進める。

## 1 令和6年度 収支見込

(単位：千円)

区 分	令和元年度決算	令和5年度決算	令和6年度 見込額	差 額 (令和6年度-令和5年度)
営業収益	2,763,021	2,470,842	2,730,985	260,143
旅客運輸収入	1,286,297	1,156,428	1,387,079	230,651
運輸雑収	1,476,724	1,314,414	1,343,906	29,492
営業費用	2,546,883	2,389,077	2,617,501	228,424
人件費	489,151	514,174	543,762	29,588
修繕費	906,077	789,020	909,444	120,424
動力費	282,879	331,218	384,063	52,845
経費	375,489	423,653	431,826	8,173
諸税	72,395	55,697	51,362	△4,335
減価償却費	420,892	275,315	297,044	21,729
営業損益	216,138	81,765	113,484	31,719
営業外収益	14,534	6,711	4,293	△2,418
営業外費用	12,026	3,871	4,472	601
経常損益	218,646	84,605	113,305	28,700
特別利益	18,523	172,238	88,511	△83,727
特別損失	23,724	64,667	-	△64,667
税引前当期純損益	213,445	192,176	201,816	9,640

## (1) 営業収益

特急列車の輸送人員の合計は、コロナ禍からの緩やかな回復に加え、令和6年3月ダイヤ改正でのスーパーはくと号1往復増発、新幹線との接続改善及び名探偵コナン号等の効果による増客により、前年度を3.6万人上回る76.4万人（令和元年度の約90%）を見込む。

旅客運輸収入は、輸送人員の増、特急料金の300円値上げ及び特急列車の全車指定席化等により、前年度から231百万円の増額、令和元年度の約108%を見込む。

運輸雑収（受取車両使用料等）は、臨時列車として設定されているスーパーはくと号1往復の年間を通じた毎日運転等により、前年度から29百万円の増額、令和元年度の約91%を見込む。

合計の営業収益は前年度から260百万円の増額、令和元年度から32百万円の減額を見込む。

## (2) 営業費用

スーパーはくと号の1往復増発等により動力費が前年度から53百万円増額、車両部品等の修繕により修繕費が前年度から120百万円増額する等により、前年度から228百万円の増額を見込む。

(3) 営業損益・経常損益

営業損益は 113 百万円と前年度から 32 百万円の増益、経常損益は 113 百万円と前年度から 29 百万円の増益を見込む。

(参考)

	記 事
収入の要因	特急列車当初見込輸送人員 76.4 万人(令和元年度輸送人員の約 90%) 車両の減価償却費の減 ※スーパーはくとは、定期列車 7 往復、臨時列車 1 往復 (臨時列車は、年間を通して毎日運転)
支出の要因	動力費 スーパーはくと号の 1 往復増発等により 53 百万円増 修繕費 車両の修繕部品等の修繕により 120 百万円増
投資	投 資 各駅の列車接近放送設備の更新等により 95 百万円増

## 2 令和6年度 投資・修繕計画

(単位：百万円)

区分		令和5年度 実績見込	令和6年度計画				
			小計	増減額	主な内容	金額	補助金
線路	投資	0	3	3	側溝新設	3	
	修繕	147	118	△29	高架橋修繕	45	補
					レール更換	14	補
					その他	59	
小計	147	121	△26				
電気	投資	99	231	132	ATS-P装置(自動列車停止装置)更新	64	補
					防災監視システム改良	25	補
					長大軌道回路装置更新	38	補
					列車接近放送更新	80	補
					その他	24	
	修繕	19	31	12	電気設備検修	9	
その他				その他	22		
小計	118	262	144				
車両	投資	92	63	△29	エンジン取替(特急)	32	
					自動放送装置、モニタ設定ROM改修(普通)	3	
					変速機取替(普通)	21	
					その他	7	
	修繕	693	742	49	定期検査(特急)	212	
					臨時検査(特急)	24	
					冷房装置点検・修繕(特急)	24	
					振子制御シリンダー更新(特急)	6	
					定期検査(普通)	25	
					その他	451	
小計	785	805	20				
その他	投資	53	42	△11			
	修繕	11	18	7			
	小計	64	60	△4			
計	投資	244	339	95			
	修繕	870	909	39			
	小計	1,114	1,248	134			

\* 令和5年度実績見込及び令和6年度計画は、令和6年1月時点での見込額で、今後の旅客状況や費用の動向次第では必要に応じて見直しを行う。

\* 補は令和5年度補正で採択されたものである。